



NEWS LETTER vol.22

これからの地方自治・地方政策を考える

連続自治体特別企画セミナー



第5回セミナーのご案内

共催：(株)日本経済研究所

「京都の地域創生、日本の地方創生」

1月28日(木)15:00~17:15 @京都府職員研修・研究支援センター2F大研修室

講師：藻谷 浩介氏 (株)日本総合研究所主席研究員
 : 中山 泰氏 (京丹後市長)
 : 佐々木 稔納氏 (南丹市長)
 : 堀 忠雄氏 (和束町長)

藻谷氏から・・・

「地方の人口減少を食い止めるためには、各地域で「地方創生」に向けた地道な取り組みを積み重ねていくことが必要です。そこで、人口減少社会についての現状分析をおこなったのち、各地の「地方創生」に向けた代表的な取り組みをご紹介しますとともに、いくつかの問題提起をおこないます。

その後、京丹後市、南丹市、和束町それぞれの取り組みも踏まえて、「地方創生」を実現するために必要な施策について、皆さんとご一緒に考えてみたいと思います。

連続自治体特別企画セミナー (KPIセミナーに名称変更を検討中) 年間計画

第5回 1月28日(木)

今年度も原則木曜日開催を予定しております。

詳細が決まり次第、ニュースレターやHP、Facebookなどでご連絡いたします。

後援等について

KPIでは、共催や後援、協賛、協力というかたちで、地方自治体や企業、NPOと連携しながらイベント等を開催しています。

ご希望の方はKPIホームページの「諸手続き」にある、「後援等申請書」にご記入の上、メール又はFAXにてご連絡ください。

京都府立大学
 京都政策研究センター
 〒606-8522

京都市左京区下鴨半木町1-5

Tel & Fax : 075-703-5319

mail : kpiinfo@kpu.ac.jp

セミナーのご案内やニュースレターなどをメールマガジンで配信しています。ご希望の方は、上記メールアドレスまでご連絡ください。

第3回セミナーの開催報告

11月26日(木) 富山県氷見市長の本川 祐治郎氏と静岡県立大学経営情報学部講師の国保祥子氏、実践報告者として静岡県立大学経営情報学部4年生の林田里紗乃氏をお迎えし「もしファシリテーターが市長になったら～フューチャーセンター市役所がひらく対話の市政～」を開催しました。

本川市長の「ファシリテーターとは、質問中心のコーチングのことであり、コーチは人に働きかけるが、ファシリテーターは場に働きかける。」という言葉と、居心地のいい座り方という事での席替えが行われ、いつもとちがう空間と印象的な言葉から講演会が始まりました。まさに「場」が創作され、参加者もどんどん本川市長の世界に入っていくような感じでした。その後登場された国保先生は、フューチャーセンターの設立のきっかけや関わりについて、初めは形を求めていなかった事や、大きな転機となったのが、東北の震災だった事、継続の大切さなどをお話し頂きました。そして学生のエリカさんが続いて登場され、しっかりとした実践報告をして頂きました。

最後に三者の方それぞれのフューチャーセンターへの思いなどを語って頂き、会が終了いたしました。「今」を象徴するセミナーのひとつであったと感じました。



本川市長のお話の様子



国保先生のお話の様子



【参加者の声】

・「ファシリテーター」という言葉を初めて聞きましたが、とても興味深い内容でした。

・いくつか印象に残った事がありましたが、「場の存在が重要」というフレーズが一番印象に残っています。

・楽しく参加する事が出来ました。机の配置換え新鮮でしたが、実際よかったです。いろいろなヒント、気づきをいただきました。ありがとうございました。

・フューチャーセッションには何度か参加した事があり、継続しているのですが「異分野の人たちの集まり」という点が大切だなと思いました。司会の先生も面白かったです。

・ファシリテーションやフューチャーセンターについての事例がよくわかりました。地域創生の市民参加のひとつとして、今後さらに広まってほしいと思います。そして、どうすれば広まっていくのかということについて具体的に考えたいです。



写真は12月19日
京都府立大学公共政策学部公開講座
共催：日本協働政策学会・京都府立大学 地域
連携センター

「人口減少社会における地方創生の戦略」の
KPIセミナーの様子。

第4回セミナーの開催報告

去る12月19日（土）、山田啓二京都府知事と増田寛也客員教授(元総務大臣)をお迎えしての第4回KPIセミナー「人口減少社会における地方創生の戦略」を開催し、約220名の参加を頂きました。今回のセミナーは毎年恒例の府民公開講座（主催：公共政策学部）に加え、日本協働政策学会、地域連携センターとの共催企画としたこともあり、自治体職員、学生に加え、多くの研究者の参加がありました。

前半の山田知事の講演では、少子高齢化や東京一極集中の問題点、海外における少子化対策、知事会の提言、京都府の地方創生戦略「文化創生」の紹介と「新しい価値観」と政策の整合性についての問題提起がありました。

続く対談では、増田客員教授から山田知事に質問を投げ掛ける形で展開されました。特に少子化対策についての都道府県の役割やこれからの中枢拠点都市圏の規模について刺激的な議論が交わされ、会場を魅了しました。

後半の増田客員教授ではテーマにデータに基づいて、人口減少についての解説があった後、山田知事の「価値観」というキーワードに引きつけつつ、対策として①子育て環境の向上、②仕事の間、働く場の創出、③高齢者の活躍、④ロボットの活用、という具体的処方箋の紹介がありました。

ともあれ、わが国で地方創生を語る上で欠かせないキーパーソンであるお二人のお話を京都で聴くことが出来たことは学生にとっても自治体職員にとっても研究者にとっても有意義、また贅沢な時間でありました。最後に本セミナーの企画・実施にご協力頂きました皆さまにこの場をお借りして御礼申し上げます。
(文責：企画調整マネージャー杉岡)

市町村振興協会

公益財団法人京都府市町村振興協会からの受託事業として、海外の行政事例の調査のため、ロンドンとパリに赴きました。ロンドンでは、自治体国際化協会ロンドン事務所、リバーバンクサイド BID、レッチワース田園都市財団を、パリでは、自治体国際化協会パリ事務所、広域都市圏イル・ド・フランス幹部職員、COP21の会場を訪問しました。

自治体国際化協会では、日本の自治体等が視察で訪れるヨーロッパの団体の情報提供を受けるとともに、これからの海外視察には「明確な問題意識」と「実利経済的な視点」が必要であるとの示唆を受けました。

BIDや田園都市財団、広域都市圏に関するヒアリングでは、日本とは異なる自治制度・税財政制度がベースではありますが、都市の再生や運営について様々な手法を試行錯誤しながら導入することによって、よりよいコミュニティの実現に努力しているという先進的な取り組みを把握できました。

最後に、COP21では世界各国の様々な団体が、百花百様のアプローチで環境問題に取り組んでいることが実感できました。



(美しく計画・整備された、レッチワースの街並み)

『KYOTO地球環境の殿堂』表彰式

第7回殿堂入り者

デヴィッド・スズキ (David Suzuki) /セヴァン・カリス・スズキ (Severn Cullis-Suzuki) 親子
ハーマン・E・デイリー (Herman E. Daly)

- ・日時 平成28年2月13日（土曜日）午後
- ・会場 国立京都国際会館 メインホール（京都市左京区宝ヶ池）
- ・内容 殿堂入り者表彰式、記念スピーチ ほか ※日英同時通訳
- ・定員 1,000名 ※参加無料
- ・主催 「KYOTO地球環境の殿堂」運営協議会

KYOTO POLICY INSTITUTE

<http://www.pref.kyoto.jp/earth-kyoto/>



KPIリレーコラム

今回は、京都府とKPIの窓口であり、KPIの運営委員会のメンバーとしてお世話になっている、上山さんが登場です！



京都府政策企画部戦略企画課

上山圭子

毎年、女子4人で旅をしています。

7年前、農林水産省主催の47都道府県の企画職員を対象にした研修があり、男性職員が多い中で参加した女子4人。年齢が近くて食いしん坊でお酒好き、しかも強い。すぐに意気投合しました。

4年前から自分の府県に招待する旅行を開始。秋田県、京都府、茨城県、今年度は佐賀県に行ってきました。各自、地元のご自慢の農林水産加工品などをお土産に持って行き、また旅行先のお土産もたくさん買うので、帰りのスーツケースはいつもパンパン。おいしいものを食べて飲んで、観光して、しゃべって…1年に1度の楽しみです。

驚いたことに、当時、研修担当をしていた農林水産省の職員が、2年前に京都府の農政課に配属になり、1年間、同じ係で仕事をしました。なんと不思議な縁。仕事ではいろいろと助けてもらいました。

この研修では、いい縁に恵まれました。「縁を大切に」とよく言いますが、それは「出会いを大切にすることだ」と思います。これからも1つ1つの出会いを大切にしていきたいです。

今回は、4人が行ったことのない高知県で飲んで食べ尽くしてきました！

<http://www.kpu.ac.jp>